

「肥後銀行 D X 計画」

株式会社 肥後銀行
2026年6月30日

1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. D Xで目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

4. D X推進に向けた基盤整備

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

<参考資料> 2025年度に実現したD X施策の明細

1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. D Xで目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

4. D X推進に向けた基盤整備

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

＜参考資料＞ 2025年度に実現したD X施策の明細

九州フィナンシャルグループの一員として、地域の未来を創造することをパーパスとしています。

PURPOSE

パーパス
(存在意義)

私たちは、お客様や地域の皆様とともに、
お客様の資産や事業、地域の産業や自然・文化を育て、守り、引き継ぐことで、
地域の未来を創造していく為に存在しています

VISION

ビジョン
(目指す姿)

お客様、地域、社員とともに、より良い未来を創造する
『地域価値共創グループ』への進化

VALUE

バリュー
(価値観・行動指針)

誠実 … 高い倫理観を持って行動する
主体性 … 自ら考え、失敗を恐れずに行動する
チームKFG… 志を一つに、グループの最適を考えて行動する

社会的・経済的な不確実性が高まる中、私たちのパーパスを体現すべく、デジタルテクノロジーを活用したビジネスモデル転換を通じて、地域・お客様・行員の「躍進」に貢献します。

地域価値の向上（熊本県の躍進）

- ◆ 熊本県G R P : 7.0兆円 (+0.3兆円)
(製造業、農林漁業等の主要産業の振興)

顧客価値の向上（お客様の躍進・幸福）

- ◆ 個人・法人顧客総合満足度 : 71.8%・64.2%
- ◆ 法人経常利益増加率 : +30%
- ◆ 個人金融資産額増加率 : +10%

「パーパス」を軸に、地域・お客様・行員の「躍進」に貢献する

K F G バリュー

パーパス

2030年ビジョン

経営品質

企業理念

健康経営

行員価値の向上（行員の躍進・幸福）

- ◆ エンゲージメントスコア（総合） : 75P (+ 4P)
- ◆ 健康経営(ホワイト500認定) : トップ10以内
- ◆ 人的投資 : 9.5億円 (+30%)
- ◆ 専門人材 : 650名 (2.5倍)

1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. **D X**で目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

4. **D X**推進に向けた基盤整備

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

＜参考資料＞ 2025年度に実現した**D X**施策の明細

K F Gグループのパーパス体现のために、肥後銀行は『デジタル先進企業』に向けて躍進し、そのための変革に全社を挙げて取り組んでいきます。

DXで目指す姿 (2030年)

テクノロジーとデータを駆使し
地域の未来を創造する『**デジタル先進企業**』

顧客価値

新たな価値提供
に向けた変革

地域価値

- デジタルサービスの利便性と、人による高付加価値を融合させ、優れたお客様体験（CX）を提供
- デジタルテクノロジー活用による地域社会の課題解決

変革のための抜本的
業務プロセスの改善

- 営業店における事務作業の削減と徹底した自動化、簡素化
- AIを活用した抜本的業務変革の推進

人材開発

- 価値を創り、届ける人材
- 確保/育成/定着のための働き方

行員価値

組織・制度

- CX起点の組織態勢
- DX推進を加速するルール整備

システム

- 安全性と生産性の追求による持続可能なシステム基盤の構築

マインドセット

- お客様起点
- データドリブン
- アジリティ
- 挑戦する風土
- オープンイノベーション

1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. D Xで目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

4. D X推進に向けた基盤整備

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

＜参考資料＞ 2025年度に実現したD X施策の明細

従来からの強みである“人”による価値提供に加え、データ基盤の構築・活用を通じたデジタルサービスの利便性により、優れたお客様体験を提供します。

個人・法人の利便性向上に向けたデジタルプラットフォームの機能拡張

個人向けバンキングアプリ

- ・普通預金口座の新規開設（eKYC強化） '26/11
- ・多言語対応（英語・繁体字） '26/11
- ・目的別預金口座の開設 '27/07

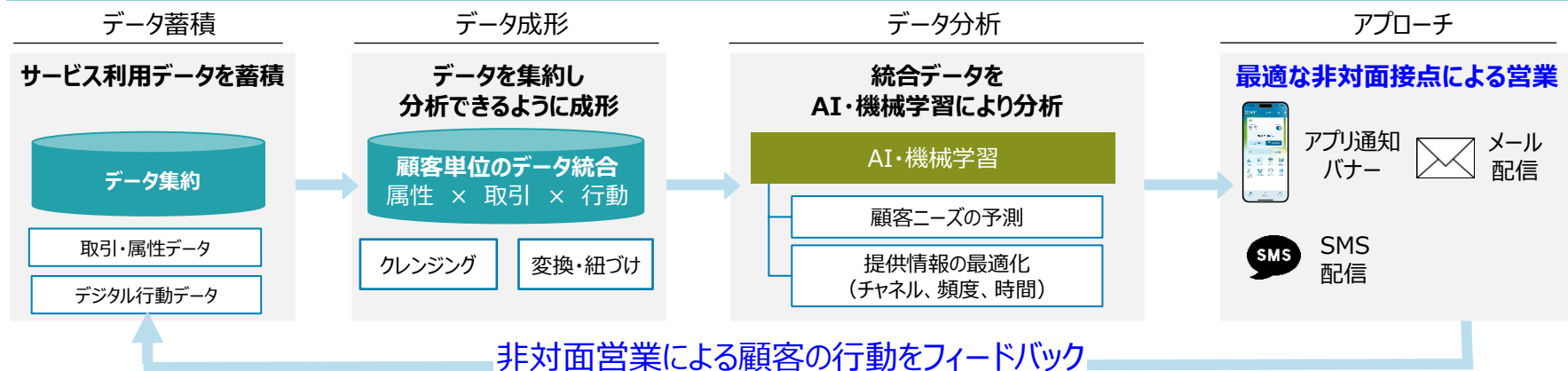


肥銀ビジネスportal・法人インターネットバンキング



- ・各種手続きのWeb申込（インターネットバンキング新規申込等） '26/12
- ・振込入金通知（メール配信） '26/12
- ・請求書支払・管理事務DX '27/3

マネーとデータの地域内還流



「くまモン!Pay」をはじめとするデジタル金融サービスを通じて、優れたお客様体験を追求し、データを蓄積・活用することで地域の持続的成長を牽引します。

「くまモン!Pay」によるお客様体験の向上と、地域内での情報サイクル

優れたお客様体験の追求

- ✓ お客様ニーズを起点としたサービスを提供し、地域の決済インフラを構築



©熊本県くまモン # K36295

地域経済への貢献

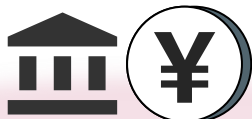
- ✓ 経済とデータの地域内還流による、らせん状の地域経済発展を目指す



「トークン化預金」「ステーブルコイン」などのトークン化金融に関する研究/実証を通じ、
未来の金融機関が提供するべき、お客様の利便性をさらに向上するサービスを目指します。

トークン化金融で目指す世界観

一般的な特長と、必要な技術範囲



トークン化預金をはじめとした
セキュリティトークン※経済圏



円連動/海外ステーブルコイン
経済圏との連携

① トークン化預金

一般的 特長

- 日次/時間単位での利息付与と見える化
- カーボンプレジット取引等、預金以外の取引と関連するサービスの提供

技術 範囲

当行独自トークン化預金の開発

② ステーブルコイン

海外貿易における時間や手間のかかる取引での
24時間/365日の即時決済・入金

外部ステーブルコイン経済圏との取引・決済を
自動化するためのAIエージェント開発・運用

最新のデジタルテクノロジーとデータを活用し、地域企業の皆様や、地方自治体を含む地域社会の課題解決に取り組んでいきます。

地域社会のDX支援

① 地域企業のお客様へのご支援

- ✓ 経営課題を解決するDXコンサルティングサービスの提供
 - ✓ 地方自治体と連携した地域企業のお客様へのDX支援
 - ✓ 社外セミナー等を通じた情報発信および、お客様との接点創出
- DX認定取得支援**
「DX認定」基準に紐づいたDX計画策定を支援し、**全社的なDX施策の体系化と「認定取得」**をサポート

業務プロセスコンサルティング
現状の業務プロセスの可視化と理想像を描き、デジタルツールを活用した**業務プロセス再編成**を支援

AI導入・活用サポート
企業ごとに**最適なAIサービスの導入・活用**をサポート
- 当行主催セミナーでの情報発信**
「肥後銀行ニューリーダー会※」にて、地域企業のお客様に向けて**生成AI活用セミナー**を開催

お客様・協力ベンダ主催セミナーへの協力
地域企業のお客様や協力ベンダ主催のセミナーにて、必要に応じ開催協力や登壇を実施
- ✓ KFGグループ会社や提携企業等と連携した、ICTに関する課題解決支援の実施

※ 地域企業のお客様（経営者および若手後継者）のためのネットワーク組織

② 地方自治体のお客様へのご支援

- ✓ 地方自治体のDX支援、業務効率化支援
- ✓ 銀行とのデータ授受の効率化

最新のデジタルテクノロジーとデータを活用し、地域企業の皆様や、地方自治体を含む地域社会の課題解決に取り組んでいきます。

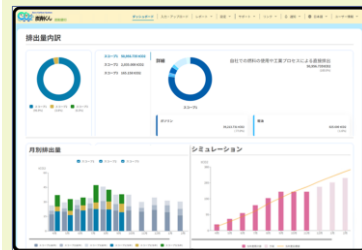
地域社会の課題解決

① 地域の持続可能性向上に向けた、デジタルテクノロジー活用 of 取り組み

✓ 事業者のサステナビリティ課題解決のためのソリューション提供



電気・エネルギー等の使用量から、CO₂排出量を算定するサービス



- ✓ 自社排出量を可視化し、Scope1～3算定可能
- ✓ 自治体と連携した省エネ・脱炭素化支援
- ✓ 全国の脱炭素化実現に向け、金融機関・事業会社と協働



フードロス、在庫ロス、設備ロスを解消するプラットフォーム事業



- ✓ ユーザーは割安な購入、事業者はロスをマネタイズ
- ✓ LINE※で簡単アクセス
- ✓ 熊本県発サーキュラーエコノミーの拡大を目指す

※ LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社 の登録商標です。

② 技術革新への持続的なキャッチアップ

- ✓ 2025年10月にK F GにA I 統括室、肥後銀行および鹿児島銀行にA I ソリューショングループを新設。AI活用に関するガバナンス整備と業務実装をグループ一体となって推進する態勢を整備。

営業店における事務作業を削減し、行員がお客様サービスに寄り添える環境をつくることで、営業店を「お客様に価値を届ける場」へと転換していきます。

営業店業務改革

① 業務プロセスを革新し、課題解決支援人員創出

✓ 手続用タブレットで記入・捺印レス等、新しい体験/価値を提供

タブレット入力のみで手続きが完結し、待ち時間を劇的に短縮
(例：新規口座開設を30分短縮)



手続用タブレット
"AGENT"

- 記入・捺印レス
- キャッシュカード不要
- 多言語対応

45分→15分

✓ 行員事務オートメーション化による生産性向上

紙帳票の削減

事務ミスの削減



店舗外での手続き可

後続事務の自動化

確実な説明責任履行

② 店舗を「コンサルティング」の場へ転換

✓ セルフオペレーション化/生産性向上により、店舗はコンサルティングや情報発信に特化した「価値を届ける場」に



お客様向けセミナーが実施できる
コンサル・相談スペース

タブレット入力により手続きが完結する
セルフサービススペース

行員の提供価値は、事務処理からコンサルティング等の課題解決支援業務へ

業務プロセスを自動化し、行員がデジタル企画・開発に集中できる環境をつくることで、銀行全体を「お客様への価値を創る場」へと転換していきます。

各部等における業務改革

フェーズ 1

■ 業務アセスメント

- ✓ 効率化できる余地の特定
- ✓ 効率化効果の定量化
- ✓ 廃止、自動化手段の検討

■ ノウハウの内製化

フェーズ 2

■ 業務廃止・自動化の実装

- ✓ 生成AI、AI-OCRの活用
- ✓ RPAによる業務自動化
- ✓ データ活用による報告・会議の効率化
- ✓ ツールによるコミュニケーション高度化
- ✓ 営業店から各部等への事務集中

■ 人員再配置の実行

フェーズ 3

■ DXコンサルティングのメニュー化

■ 地域DX推進への課題解決

- ✓ 人材、情報、資金の不足解消

58業務のプロセス改善・自動化を実施

【アセスメント】
現状把握

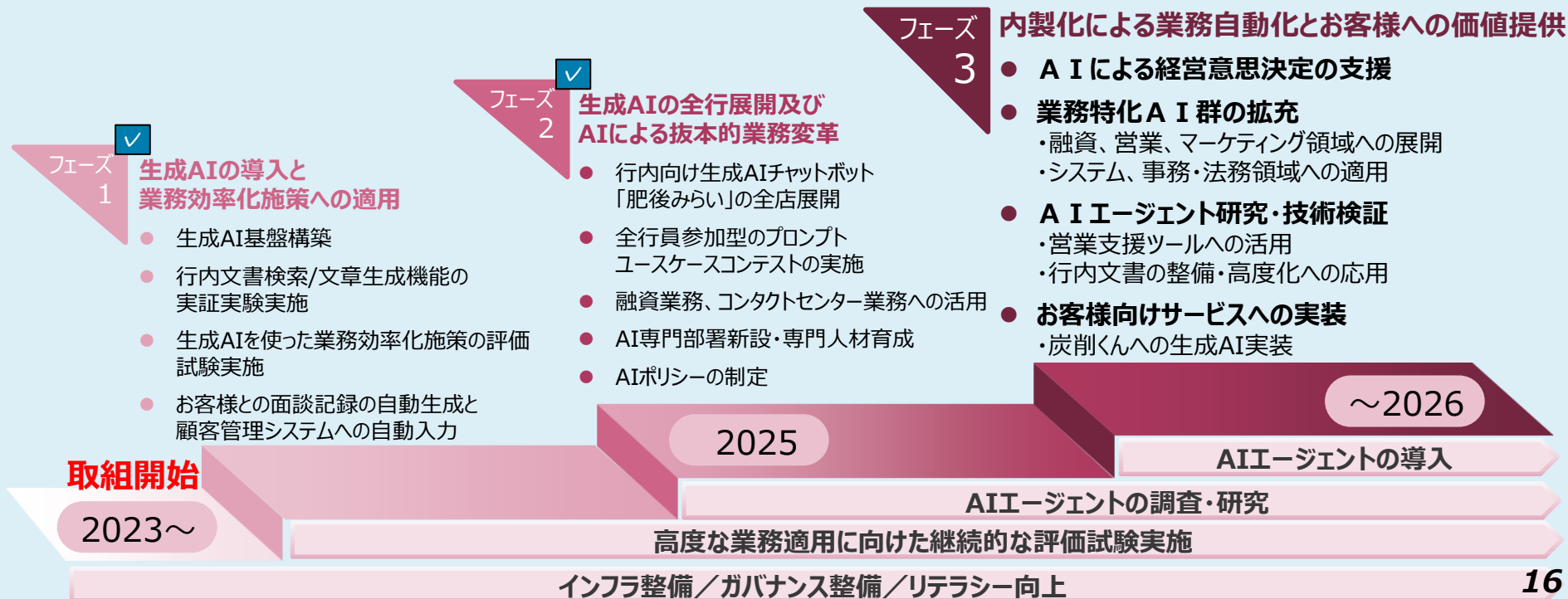
【加速】
人員捻出と再配置

【地域還元】
地域へのノウハウ展開

行員の提供価値は、事務・管理からお客様向けサービス企画・運營業務へ

**A I を積極的に業務プロセスに適用し、抜本的業務変革を推進するとともに、
A I エージェント導入による新たなビジネスモデル創出を目指します。**

A I 活用ロードマップ



1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. D Xで目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

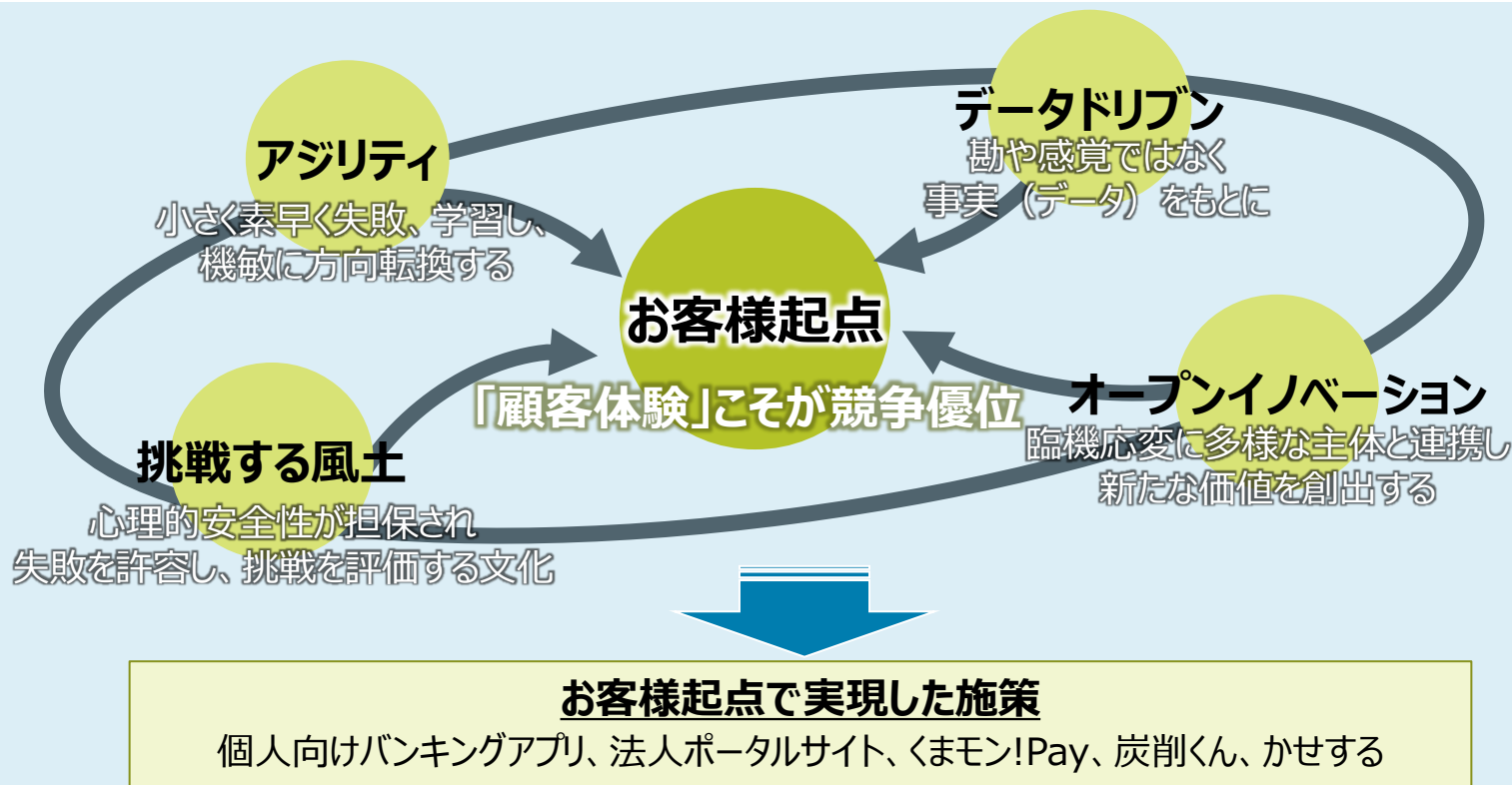
4. **D X推進に向けた基盤整備**

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

＜参考資料＞ 2025年度に実現したD X施策の明細

デジタルテクノロジーとデータを使いこなし、「デジタル先進企業」へと進化するために、全社的なマインドセットの転換を図るとともに「お客様起点の施策」を推進します。



デジタルテクノロジーとデータを使いこなし、「デジタル先進企業」へと進化するために、全社的なマインドセットの転換を図るとともに「お客様起点の施策」を推進します。

お客様起点

- ・「顧客体験」が競争優位を生む。全役職員は、「お客様第一主義」をスローガンとして掲げるだけでなく、「顧客体験」を起点として組織・人を運営し、商品やサービスをゼロベースで設計する。

データドリブン

- ・データはお客様の声。勘や感覚ではなく、データを読み解き、データに基づいて判断することで、お客様の潜在的なニーズに対応する。
- ・バイアスや希望的観測を排除し、事実に基づく判断を行う。

アジリティ

- ・「顧客体験」に単一の正解は無く、改善のためには、計画よりも実験することに価値がある。小さく素早く失敗、学習し、機敏に方向転換することでこそ正解に近づく。

挑戦する風土

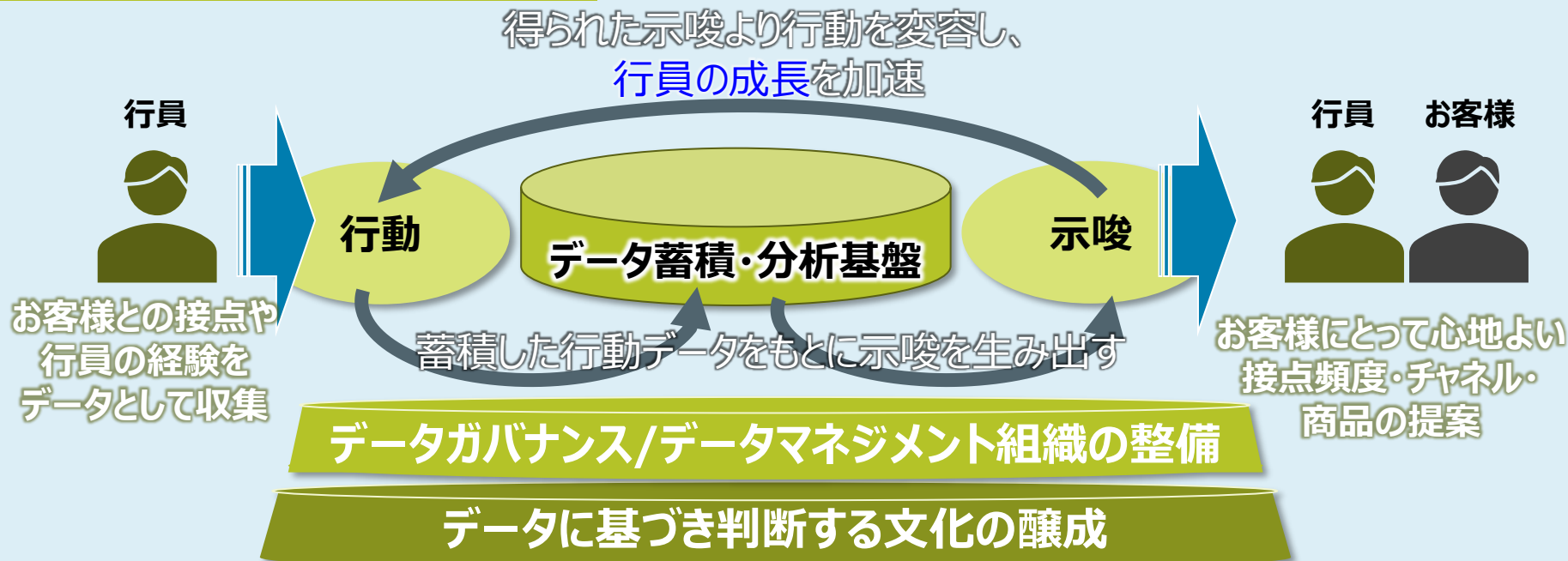
- ・失敗を許容し、挑戦を評価する文化を醸成する。
- ・心理的安全性が担保され、多様な人材が、それぞれの持ち場で挑戦できる文化を醸成することで、変化への対応力を高める。

オープン イノベーション

- ・自前主義に固執せず、お客様への価値提供を起点に多様な主体と連携する。
- ・社内外から市場価値の高い人材を惹きつけ、定着させていくために、人材中心で考え、魅力的な成長・活躍の機会を提供していく。

ニーズセグメント営業※¹やCDP※²を推進し、お客様と行員の接点や利用状況および、行員の経験をデータ化して示唆を生み出す「データに基づき判断する組織・文化」を形成します。

データドリブンによる行動変容

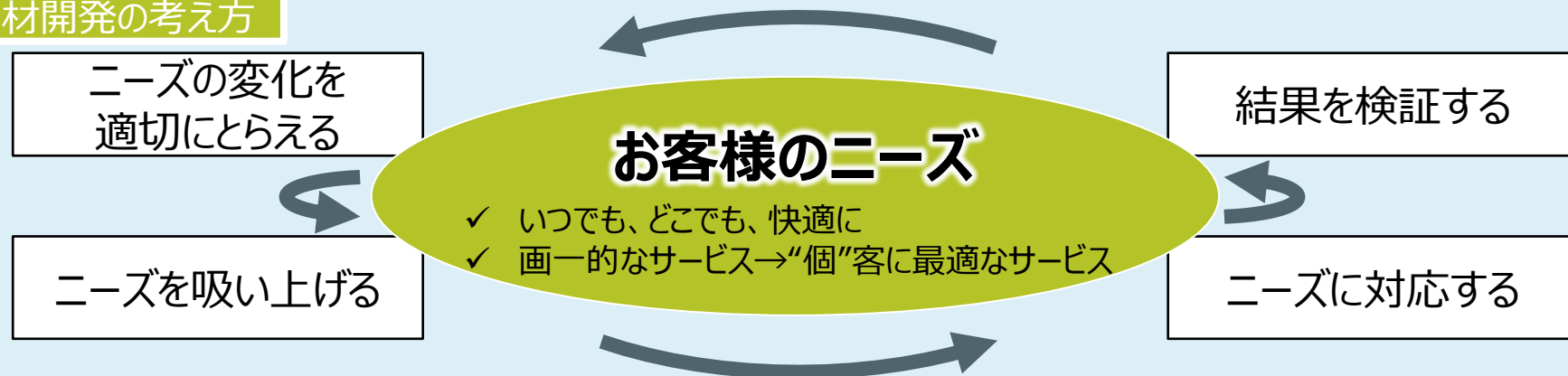


※1 ニーズセグメント営業：残高や取引量ではなく、お客様の内面的な思考や嗜好、判断基準等を基に行われる営業活動

※2 Customer Data Platform：顧客データ基盤。Web、店舗、アプリなど複数のソースから収集した個人データを統合・管理するシステム

お客様のニーズを起点に、AIとデータを活用して迅速かつ正確に価値を提供するため、『価値を届ける人材』や『価値を創る人材』の育成と採用を進めます。

人材開発の考え方



DX推進人材

“価値を届ける人材”

- ✓ AI・DXを含むお客様の課題を把握
- ✓ データに基づく課題分析
- ✓ 最適なソリューションを組合わせて提案 等

“価値を創る人材”

- ✓ デジタルサービス企画・開発・運用
- ✓ UI／UXデザイン
- ✓ 最適なシステム構成とセキュリティの担保
- ✓ 新規事業の開発 等

DX推進に必要な7つのスキルを「DX推進人材」として定義し、基準を満たす人材を育成・採用していきます。

“価値を届ける人材”

DX
コンサルタント

主に各部等の専門チームに所属し、お客様に向けた総合的なDX提案を実施

専門性

DX
アドバイザー

主に営業店に所属し、お客様のDXに関する課題の把握、吸い上げを実施



“価値を創る人材”

ビジネス
アーキテクト

目的設定から導入、導入後の効果検証まで関係者をコーディネートしながらDXを推進する人材

デザイナー

ビジネスや顧客の視点から製品やサービスの方針・開発プロセスを策定し、デザインを行う人材

データ
サイエンティスト

業務変革や新規ビジネスに向け、データを収集・解析、仕組みの設計・実装・運用を担う人材

ソフトウェア
エンジニア

デジタル技術を活用した製品・サービス提供のためのシステムやソフトウェアの設計・実装・運用を担う人材

サイバー
セキュリティ

DX推進におけるサイバーセキュリティリスクの影響を抑制する対策を担う人材

IPA高度資格・E資格※等の高度資格取得を通じた、専門知識の土台を構築

※日本ディープラーニング協会が主催する、AI分野での知識やスキルを証明する資格試験

G検定・ITパスポート、金融IT検定®等の資格取得を通じた、デジタルに関する一般的な知識の土台を構築

2030年度までに、行内各セクションに「D X 推進人材」を1,000名配置し、デジタルサービスの企画・開発力、お客様への提案力を強化します。

D X 推進人材の配置

As-Is (308名)

To-Be (1,000名)

企画

デザイナー

4名
10名

サービス企画力
強化のため
全部門に配置

データに基づいた
企画立案の強化

データ
サイエンティスト

33名
70名

非対面チャネル

お客様

個人

管理

システム開発・運用
・内製化を強化

ビジネス
アーキテクト

97名
120名

経営戦略を踏まえた
D X コンサル提案

サイバー
セキュリティ

26名
30名

営業支援

営業

渉外係全員

DXアドバイザー

法人

システム

ソフトウェア
エンジニア

9名
100名

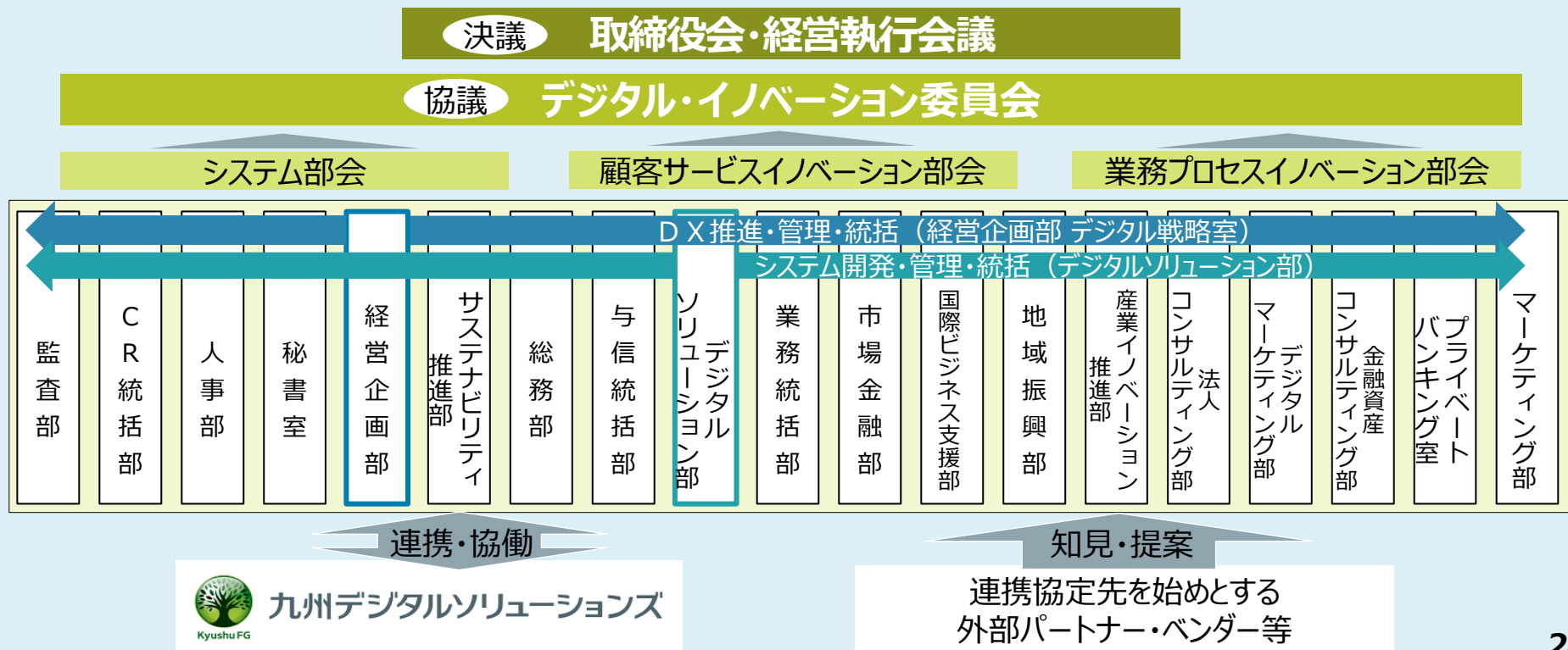
DXコンサルタント

5名
15名

134名
655名

自治体

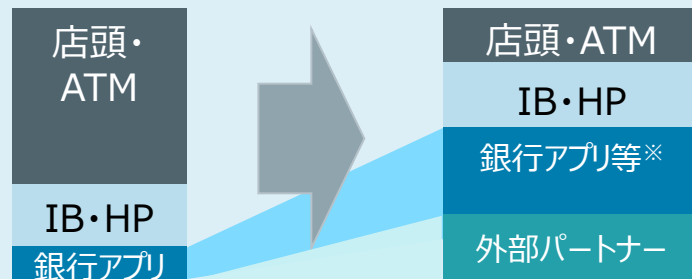
代表取締役頭取を委員長とする「デジタル・イノベーション委員会」にて、D Xに関する方針・戦略策定・進捗管理等を組織横断的に議論しています。



お客様取引の変化を踏まえた顧客体験の向上を図りつつ、安全性を担保する持続可能なシステムインフラの獲得を目指します。

基本的な考え方

顧客体験向上



情報資産



高度専門人材の
確保・育成

ID統制/資源管理/ログ分析などを
セキュリティロードマップに従い実施



お客様



外部企業/団体



行内

顧客体験向上

- ✓ あらゆるチャネルでお客様のU I / U Xを最重要に考え、設計します。
- ✓ 外部パートナーのソリューションやプラットフォームを柔軟に活用したサービスの提供を進めます。

※技術革新による新たなユーザーインターフェースを含む（例：V R、音声等）

安全で持続可能なシステムインフラ

- ✓ ゼロトラスト・セキュリティ態勢の構築を目指し、ID統制/資源管理/ログ分析など、必要な施策をセキュリティロードマップに従い、実施します。
- ✓ セキュリティ確保のため、高度専門人材の確保・育成に継続的に取り組みます。

K F Gグループ企業間での融資システム、証券システムの共通化を軸に、サービスチャネルの充実と、様々なデータを蓄積・分析するためにデータベース基盤の刷新を行います。

サービスチャネルの充実

営業店

相談窓口 手続用タブレット

デジタルチャネル

IB/BIB 法人ポータル アプリ くまモン!Pay 外部パートナー

タッチポイントとしてのデジタルチャネルを充実させながら、重要な相談は営業店で対応

K F Gグループ企業間でのシステム統合

システム統合の範囲

自営開発の範囲

移行・運用コスト

肥後銀行 鹿児島銀行

AI 基盤

融資システム

証券システム

顧客影響・業務影響

システム開発・運営態勢

移行タイミング 他

AI 基盤や融資/証券システム等を、様々な要素を勘案しつつ、共通化含めグループ内での最適統合を推進

データベース基盤の刷新

業務システム

顧客管理

融資管理

...

業務用DB

分析用DB

2026年度リリース



データ利活用
(AI・BI・CDP他)

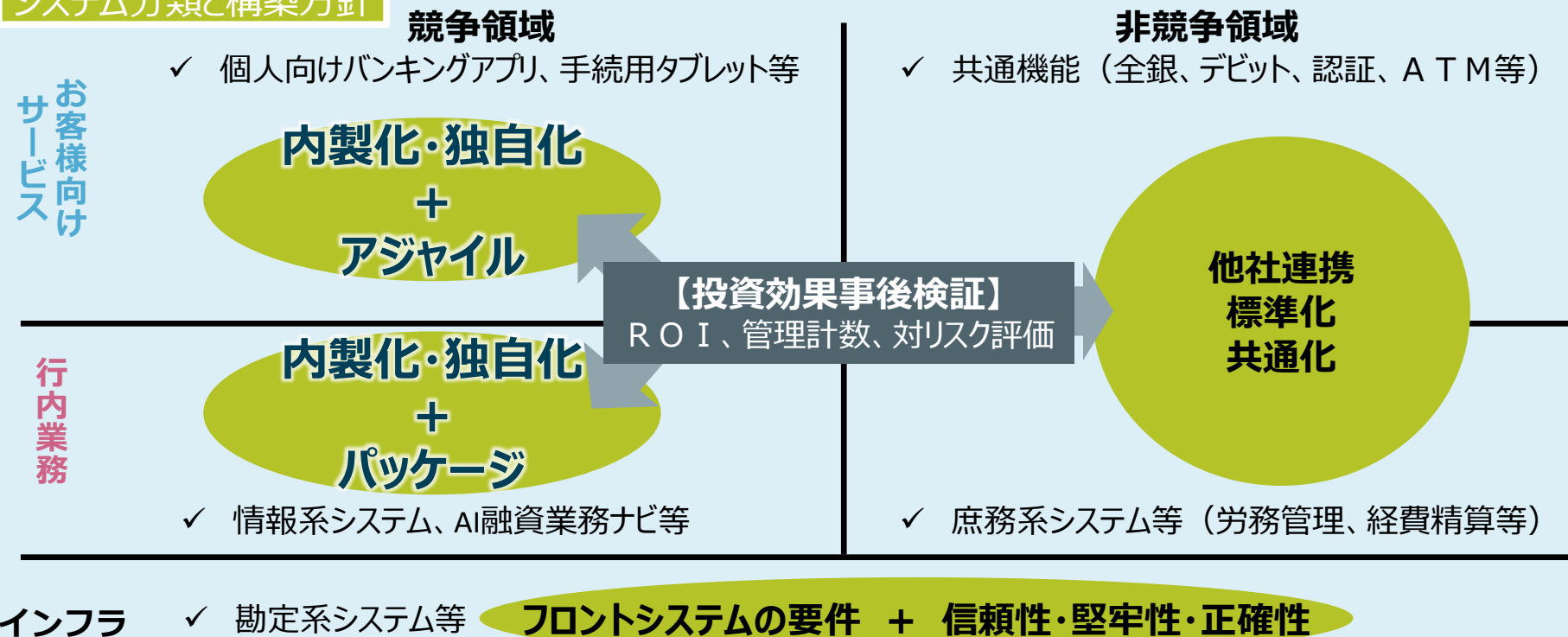


非構造化データ
(画像・音声他)

業務システムデータ以外にも非構造化データを分析し、更なるデータ利活用が可能な基盤に刷新

サービスや業務に応じてシステムを競争・非競争領域に分類し、競争領域への投資割合40%を維持しつつ、鹿児島銀行とのシステム共同化により既存システムをスリム化します。

システム分類と構築方針



1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. D Xで目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

4. D X推進に向けた基盤整備

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

＜参考資料＞ 2025年度に実現したD X施策の明細

持続可能な地域社会の実現に向け、当行財務指標のほか、地域価値、顧客価値、行員価値の向上をK P Iとして設定しています。

指 標		2024年度 実績	2025年度		2026年度 計画
			計画	実績	
地域価値の向上	熊本県GRP	6.8兆円	6.8兆円	6.9兆円	7.1兆円
顧客価値の向上※	個人のお客様満足度	82%	88%	83.1%	71.8%
	法人のお客様満足度	84%	88%	89.6%	64.2%
行員価値の向上	エンゲージメントスコア	74P	74 P	75 P	75 P
コア業務純益		142億円	191億円	206億円	284億円
顧客向けサービス業務利益		99億円	96億円	108億円	174億円
当期純利益		158億円	167億円	188億円	220億円
役務利益比率		12.6%	12.7%	11.8%	11.8%
OHR		68.1%	69.1%	67.1%	61.0%

※ 2026年度計画より全てのお客様を対象とするよう基準を変更（2025年度以前は一定の取引量のあるお客様が対象）

総合的な管理指標としての「D X 推進指標」に加え、デジタル戦略、D X に向けた基盤整備の観点からもK P I を設定しています。

項目	指 標	2024年度 実績	2025年度		2026年度 計画
			計画	実績	
総合指標	D X 推進指標（平均値）	3.3	3.6	3.5	4.0
新たな価値提供 に向けた変革 （累計）	個人向けバンキングアプリの 利用者数	28万人	33万人	34.5万人	40万人
	D X 支援コンサルティング件数	44件	60件	64件	100件
	D X 認定企業数	32件	40件	41件	51件
変革のための リソース分配最適化	顧客関係強化人員比率	51%	53%	45.5%	55%
	事務削減時間（累計）	▲58万時間	▲60万時間	▲60.5万時間	▲65万時間
	ペーパーレス（2019年度比）	▲14.5%	▲15.6%	▲16.7%	▲17.3%
D X 人材育成 （累計）	D X 推進人材	180人	300人	308人	437人
	I T パスポート、I P A 上位 資格取得者数	1,150人	1,200人	1,400人	1,600人
	専門人材の採用人数	11人	20人	25人	30人
システム基盤整備	競争領域への投資割合 （40%以上維持）	41%	35%	41.5%	40%以上

1. 経営理念体系

- (1) 九州フィナンシャルグループの理念体系
- (2) 肥後銀行の中期経営計画「躍進」

2. D Xで目指す姿

3. デジタル戦略

- (1) 新たな価値提供に向けた変革
- (2) 変革のための抜本的業務プロセスの改善

4. D X推進に向けた基盤整備

- (1) マインドセットの転換
- (2) 人材開発
- (3) 組織・制度
- (4) システムインフラ

5. K P I

＜参考資料＞ 2025年度に実現したD X施策の明細

区分		実施した施策	内容	実施時期	ニュースリリース(リンク)
新たな価値提供に向けた変革	利便性の向上	ATMによる「PayB」を利用した税金・公共料金収納機能の導入	ATMにて、「地方税統一QRコード（eL-QR）」や公共料金等の「コンビニ払込票のバーコード」を読み取ることで、各種料金の支払いが可能な機能を導入。	2025/5	A T Mによる「P a y B」を利用した税金・公共料金収納機能の導入について
		ATMコーナーへのデジタルサイネージシステム導入	災害時の安全確保と情報周知のため、ATMコーナーや店舗に遠隔操作可能なデジタルサイネージを導入。	2026/1	—
		行外向けFAQシステムの試行導入	お客様向け「よくある質問」検索サイトの回答精度向上を目的として、生成AIを活用したFAQシステムを試行。	2026/3	—
		「肥後銀行アプリ」の機能改善	一般財形・年金財形・住宅財形の預金表示と定期預金等の単独登録の機能を追加。	随時	—
		「肥銀ビジネスポータル」「BigAdvance」の機能拡張	経営コラムの掲載、セミナー申込、ビジネスマッチングニーズ掲載、BIB連携、資金管理機能追加。	随時	—
		「A G E N T」への機能追加	外貨両替受付機能を追加。	随時	—

(参考) 2025年度に実現したD X施策の明細

区分		実施した施策	内容	実施時期	ニュースリリース
新たな価値提供に向けた変革	お客様体験の向上	熊本地域振興デジタル通貨「くまモン!Pay」の取り扱い開始	全国の加盟店や、県内バス・熊本市電などの公共交通での決済可能なVisaおよびiDのバーチャルプリペイドカード取り扱い開始、QR決済機能追加。	2025/6	熊本地域振興デジタル通貨「くまモン!Pay」の取り扱い開始について
		「ひぎんポイントサービス」の開始	肥後銀行との取引内容に応じて、「お取引ポイント」および「ひぎんコイン」を獲得でき、それぞれの特典を受けることができるサービスを開始。	2026/2	「ひぎんポイントサービス」の開始について
	地域社会課題解決	CO ₂ 排出量算定システム「炭削くん」の全国展開、機能追加	お客様の脱炭素経営支援および地域のカーボンニュートラル実現を目的として、CO ₂ 排出量算定システム「炭削くん」を全国へ販売、FE 算定機能追加。	随時	—
		日本政策金融公庫熊本支店との地域ロス解消プラットフォーム「かせする」に関する連携	日本政策金融公庫熊本支店と連携し、同公庫が事業者へ「かせする」を紹介、当行が登録や運用サポート。	2025/12	日本政策金融公庫熊本支店との地域ロス解消プラットフォーム「かせする」に関する連携について
	地域D X支援	くまもとDX推進コンソーシアム事務局運営委託業務による 地域DXの推進	コンソーシアム運営管理業務、DX実装に向けた情報発信・調査、DX相談・実装マッチング支援、業界毎の展示会の開催。	2025/6	令和7年度くまもとD X推進コンソーシアム事務局運営委託業務」による地域D Xの推進について

(参考) 2025年度に実現したD X施策の明細

区分		実施した施策	内容	実施時期	ニュースリリース
変革のための抜本的業務プロセスの改善	全行	生成AIチャットボット「肥後みらい」の全行展開	生成AIチャットボットを全行員に展開し、業務効率化と生産性向上を図る。	2025/4	—
		AI 音声録音アプリ「bellSalesAI（ベルセールス AI）」の導入	お客様へのご説明内容の正確な記録、ご意向の正確な把握、および行員の面談記録作成業務の効率化を目的として、「bellSalesAI」を全営業店に導入	2025/9	AI 音声録音アプリ「bellSalesAI（ベルセールス AI）」の導入について
		次期融資支援システム「次世代KeyMan」の導入に向けたプロジェクト開始	渉外・融資業務の効率化、リスク低減、コスト効果を目的に、新融資支援システム「次世代KeyMan」導入プロジェクトを開始。	2026/3	フューチャーアーキテクトとの次期融資支援システム「次世代KeyMan」の導入に向けたプロジェクト開始について
	営業店	「AI融資業務ナビ」の導入	お客様との面談等の生産性の高い業務時間の捻出や、渉外経験の浅い若手行員の補助ツールとして生成AIを活用した「AI融資業務ナビ」を導入	2025/12	—
		AIロールプレイングシステムの導入	行員のお客様対応トレーニング、提案力、交渉力の向上を目的としたAIロールプレイングシステムの導入・運用開始	2025/12	—
		課題解決型店舗の拡大	原則店頭で現金を取り扱わない「店頭キャッシュレス店舗」を、みよしスマート支店、東京支店、大阪支店へと拡大。	2026/2	店頭キャッシュレス店舗の拡大について

(参考) 2025年度に実現したD X施策の明細

区分		実施した施策	内容	実施時期	ニュースリリース
D X推進に向けた基盤整備	マインドセット	行員のマインドセット定着に向けた各種セミナーの実施	下記テーマにて、全行員を対象にしたセミナーを開催。 ・セミナー：「U Xデザイン基礎セミナー」,「A Iと脳」 ・勉強会：生成A I勉強会 等	随時	—
	人材開発	デジタル技術の活用レベル向上に資する各種研修及び学習支援施策の実施	下記テーマにて、研修及び学習支援施策を実施。 ・I T企画力強化研修,プロジェクトマネジメント研修 ・動画学習サービス「Udemy Business」 ・生成A I活用アイデア創出研修 等	随時	—
		専門人材のスキルレベル判定制度構築	D X推進人材のスキルレベル判定制度を導入。個々のスキルを詳細に把握し、最適な人材配置を実施中。	随時	—
	組織・制度	A Iソリューショングループの新設	A I技術の研究・活用を加速させるため、専門部署新設。A Iに関する企画やAI技術を活用したデータ分析・加工・提供を担当。	2025/9	—
		サイバーセキュリティ経営宣言・A Iポリシーの制定	サイバー脅威対策と地域貢献のためセキュリティ宣言を制定し、A Iリスク対応と活用推進のためA Iポリシーを策定。	2026/3	—
	システム	KFGデジタル統合基盤の構築	グループ横断でのデータ統合を進め、A Iを駆使した価値創造を進める仕組みとしてデジタル統合基盤の構築を発表。	2026/3	九州フィナンシャルグループの重要システム群統合方針について

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

本件に関するお問い合わせ先
肥後銀行 経営企画部 デジタル戦略室
TEL 096-326-8678

以 上